

2 かさんの「2020 北海道 ED 選手権（最終戦）の行方」

－ 公認クラス選手の活躍を中心に！ －



新型コロナウイルスの影響で開催が遅れた今年の「MFJ 北海道エンデューロ選手権（道内戦）」は、7月19日（日）にルスツのBIGBEARで第1戦が始まりました。

これまで夕張で行われたヒーローレーシング大会（第2戦）や先日、BIGBEARで行われた全日本ED選手権ルスツ2デイズ（全日本大会）を含めた全4ラウンドが無事終わり、アツという間に今週末のルスツ戦で最終戦を迎えることになりました。

今回ルスツで行われる最終戦は、先月行われた全日本大会によりコースのコンディションが悪化していることから、これまでの簡易オンタイム方式からクロスカントリー方式で実施されることになっています。

オンタイムに慣れていない選手にとっては、良い記録を出すまたとないチャンス。写真を撮る側にとっても全コースで皆さんの気合いの入った姿を捉えることが出来るので、今からとても楽しみにしています。

さて、それではいつものとおり最終戦の前にレースの見どころを整理してみたいと思います。

まず来年度に向けた上位クラスへの昇格要件なのですが、上位クラスに昇格できるかどうかは年間を通した道内戦で獲得した全ポイントを集計して決まることになっています。

昇格枠は昨年と同じくIAクラスが1人、IBクラスが3人、NAクラスが6人となっています。

公認クラスで上級クラスへの昇格を狙うIB・NA・NBの主なライダーは、これまで道内戦の全てのレースに参加してポイントを獲得してきており、中には全日本大会で一気にポイントを獲得して最終戦の前に年間チャンピオンを決めた選手や、下位から一気にトップに躍り出た選手が現れています。

しかしながら MFJ から発表された公認クラスの最新のポイントランキングを良くみると、各自の獲得したポイントの差が極めて小さいことから、最終戦のコースコンディションや各選手の戦い方によっては、順位が入れ替わる可能性が大いにありそうな感じがします。

このまま順当に終わるのか？

悪天候や予期せぬアクシデントでどんでん返しがあるのか？

いずれにしても最終戦のルスツでは、各クラスともかなり気合いの入ったレースが展開されると予想されます。

どのようなレースが展開されるのか、観戦するのが今からとても楽しみです。

それでは早速、現状を分析しながら最終戦の行方を探ってみましょう。

◎IB クラスは 140 中江選手が最終戦を待たずにチャンピオン決定！



このクラスのこれまでの見どころは、何ととっても IA クラスへの昇格を賭けた 140 中江選手と 141 伊藤選手のチャンピオン争いでした。

今年の全道戦（第 1 戦・第 2 戦）では、140 中江選手が僅差で 141 伊藤選手をかわす形で進んできました。

先日の全日本大会では一日目で中江選手が 2 位、伊藤選手が 3 位と全国の強者を相手に素晴らしい活躍ぶりを見せていました。

しかし二日目は、時おり降る短期的な豪雨のせいでコース状況が一変し、悪天候に弱い 140 伊藤選手は最終周で

リタイヤとなりました。

このことによりこれまでの4戦での獲得ポイントは140 中江選手が94ポイントで141 伊藤選手が64ポイント。二人のポイント差は30ポイントとなり、仮に最終戦で140 中江選手が欠場し、141 伊藤選手が優勝したとしてもその差は25ポイントしか埋まらないことから、IBクラスでは最終戦を待たずして140 中江選手のチャンピオンが決定したことになります。

全日本大会にはこれまでの地方選に全戦出場している128 木口選手や158 北村選手も参戦したところですが、両者とも二日目はリタイヤしています。

◎NA クラスの戦いは今季一番の見所！



IBへの昇格枠が3人となるこのクラスは、309 清水選手の活躍ぶりが目覚ましく、最終戦が俄然面白くなってきました。309 清水選手は第2戦目のヒーローレーシング大会で3位、今回の全日本大会では一日目が4位、二日目が3位、総合3位という好成績を残しており目下、道内戦での成績はNAクラスのトップに躍り出ています。また道内戦の第1戦、第2戦で活躍した324 北谷選手や322 田崎選手の活躍も目を見張るものがあります。全日本大会の結果を見ると、324 北谷選手は一日目が5位、二日目が11位で、総合では11位。道内戦での総獲得ポイントは73ポイントで2位となっています。322 田崎選手は一日目が10位、二日目が7位で総合では7位。道内戦での総獲得ポイントは72ポイントで3位となっています。1位～3位の現在のポイント差はなんと2点しかなく、いつでも逆転できる状況にあります。

またこの3選手とともに春から道内戦に全戦参加している327 山下選手や312 伊原選手、326 松山選手の活躍も期待されています。これまでの獲得ポイントは327 山下選手が57ポイントで4位、312 伊原選手が56ポイントで5位、326 松山選手が55ポイントで6位となっており、この3選手の差もまた2ポイントしかありません。自分的な見方で検討すると、1位～3位の三選手は今のところポイント的には有利であるが、最終戦の戦い方次第では、残る3選手にも十分なチャンスがあるということが伺えます。

なお325 飯田選手は全日本大会で総合優勝するも、現時点での総獲得ポイント数は47ポイントで、仮に最終戦で優勝して25ポイントを獲得したとしても72ポイントとしかならず、今季においては獲得ポイントで昇格することは難しい状況にあると思われます。

(実力的には十分なのでMFJの規約改正による特別昇格等があるのかもしれませんが詳細は不明です。)

◎NB クラスは555 (全日本526) 馬場選手の勝利がほぼ確定か？



このクラスも春から全道戦に全戦参加している8人の選手が全日本大会で良い成績を取っています。

中でも555 馬場選手は二日目で450 齊藤選手にトップの座を奪われるも総合成績では1位とダントツの活躍ぶりです。

全道戦のポイントランキングでは目下1位の555 馬場選手が97ポイント、2位の450 齊藤選手が75ポイント、3位の449 菊池選手が73ポイント、4位の421 松山選手が61ポイント、5位の沖中選手が61ポイント、6位の

475 大森選手が 56 ポイント、7 位の 466 佐藤選手が 55 ポイント、8 位の 410 齋藤選手が 41 ポイントとなっています。

上位クラスである NA クラスへの昇格枠は 6 人なので、この 8 選手を含めて最終戦で総トータル 56 ポイント以上を獲得出来る環境にある選手であれば、コースコンディションや努力次第では NA 昇格に手が届く可能性があるかもしれません。

なお今季活躍が注目されていた 467 三盃選手は腰を痛めてルスツ 2 デイズ (R3/R4) に不参加。

451 高見選手はルスツ 2 デイズに参加するも、ポイントの獲得できないウイメンズクラスでの参加だったので、仮に最終戦で優勝したとしてもポイントが不足するため、残念ながら今季の NA クラス昇格は見込めない状況となっています。

<最後に>



勝負は時の運なのでどこでどうなるのかは分かりませんが、最終戦に参加される選手の皆さんの活躍を今からとても楽しみにしています。

レース中は何が起るか分かりません。快調に走っていても競り合って竹藪や深い轍に突っ込んで身動きがとれなくなったり、1 周目でパンクして修理に時間がかかり順位を落としてしまう選手もいます。

過去には緊張してガソリンを入れ忘れてピットまで押して帰ってきた選手もいました。

こんなイージーミスがあるとこれまでのせっかくの努力も一瞬のうちに泡と消えてしまいます。

またこうした状況の中で手堅く走って運良く上位に入賞する選手もいました。

泣いても笑っても 10 月 11 日(日)は今年最後のレースです。

あとあと悔いを残さないように、参加される選手の皆さんには、気を抜かず細心の注意を払って、全力でレースに臨んでいただきたいと思います。

(2 か)

<最終戦のご案内>

最終戦のエントリー受付は 10 月 6 日(火)までとなっています。参加希望の皆さんは忘れずにエントリーしてくださいね！

●北海道エンデューロ選手権第 5 戦のご案内 (BIGBEAR-HP)

<https://bbrusutsu.org/>